



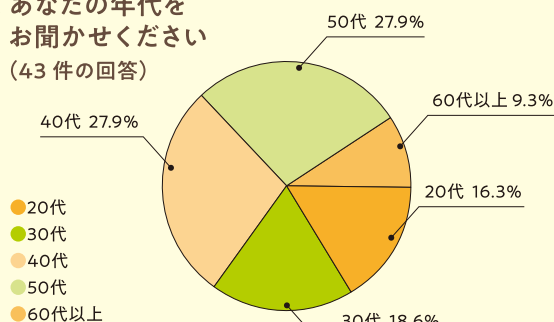
令和6年度男女共同参画セミナー～第4弾～を開催しました

令和6年9月12日(木)、伊那市のINADANI SEESにて令和6年度男女共同参画セミナー～第4弾～を開催しました。浜野京理事をファシリテーターとして、白鳥孝伊那市長、伊那食品工業株式会社の柴克宏開発本部長、本学米倉真一副学長、本学農学部田中沙智准教授をパネリストに迎え、パネルディスカッションを行いました。Zoomでの参加者を合わせ、96名が参加しました。木のぬくもりを感じる会場で質疑応答も活発に行われ、今後の男女共同参画推進に向けて一人ひとりが考える機会になりました。



アンケート結果より

Q. あなたの年代をお聞かせください
(43 件の回答)



Q. 講演内容について

とても良かった…51.2%
良かった……………46.5%
普通……………2.3%

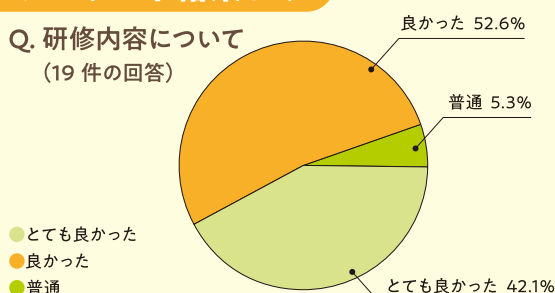
- 感想**
- 長野県南信地域の元気が伝わってくるような活発な討論がなされた。
 - 行政や企業、研究・教育と様々な面から、この地域の未来、そして信州の未来を考える機会となり興味深かった。
 - 伊那には素晴らしい風土と環境があり、多様な人がいることを改めて実感する良い機会になりました。ありがとうございました。
 - 行政、企業、大学のそれぞれの男女共同参画への取り組みを聞くことが出来て、女性として将来が楽しみに感じました。

「SOGI対応教職員研修」を実施しました

令和6年11月11日、小山法律事務所の齋藤信子弁護士を講師にお招きし、「SOGI対応教職員研修」を対面とオンライン(Zoom)にて実施しました。25名が受講しました。今年度はSOGIの多様性に関する初期対応をする可能性のある教職員の採用や入試の面接に携わる教職員を対象に実施しましたが、来年度は管理職層や全教職員にも対応した内容で実施したいと思います。オンデマンド配信をしておりますので、ご希望の方は男女共同参画推進センターにお問い合わせください。

アンケート結果より

Q. 研修内容について
(19 件の回答)



感想

- 「その対応で本当に解決につながるのか」を、現在の困りごとだけでなく、当事者の次のステップまで踏まえて考えるように心がけたいと思います。
- それぞれ各個人によって事情や状況も異なることから、相手にあわせて慎重に対応をしていかなければならないということの大切さを感じました。



工学部
かやま

香山 瑞恵 学部長

工学部の男女共同参画の現状と課題

関男女共同参画推進センター長(以下「関」):学部長就任おめでとうございます。女性初の学部長です。

工学部の男女共同参画の現状ですが、女子の割合は学科によって違いますか。

香山学部長(以下「香山」):違います。工学部の中だと、物質化学科と建築学科は女子が多めです。一方、水環境・土木工学科と機械システム工学科は大体5%、電子情報システム工学科が10%くらい。工学部全体とすると大体12%です。この割合は多分30年くらい前からほぼ変わっていないと思います。理系の女子は私が高校生の時位から大体3割と言われていますが、その割合も変わっていないと思います。

理系女子が増えない原因の一つは、保護者にアンコンシャスバイアスがあること、もう一つは理系に進んだ後のキラキラ感がないことだと考えています。特に、エンジニアやサイエンティストに対する待遇が低く、もっと正当な評価をされるべきだと思います。エンジニアは泥臭いイメージがあると感じます。自分が成長していくことができ、かつ社会貢献できる職業の選択肢がたくさんある中で、今の子どもたちには理系は一段下に見られている気がします。大人側の正しい情報発信が必要です。

男女共同参画推進センターの恩恵

関:先生は男女共同参画推進センターの発足当初から携わってくださっていたの

繊維学部
むらかみ

村上 泰 学部長

繊維学部の男女共同参画の現状と課題

関男女共同参画推進センター長(以下「関」):繊維学部の男女共同参画の現状を教えてください。

村上繊維学部長(以下「村上」):女性教員が少ないのが現状です。先進繊維・感性工学科と応用生物科学学科に女性教員がいます。学生は応用生物科学学科が5割女性で、一番多いです。繊維学部全体としては、工学系の学部としては女性が3割で結構多いと思います。応用生物科学学科が農学系で、他の学科が工学系というハイブリッドの学部なので、全体としてキャンパスに女子学生は特に多いと思います。女性教員が少ないのは問題です。全国に女性教員が少ないと取り合いになり、地方の大学まで来ていただけないことはあります。どこの大学も女性教員比率を上げようと熱心に取り組まれている、引き抜かれてしまうこともあります。我々の努力が足りないことも十分認識はしています。色々な意味の多様性を許容する必要があります。

ワーク・ライフ・バランスと多様性

関:先生のワーク・ライフ・バランスを教えてください。

村上:私自身は2年前から妻の母が認知症で介護が必要なため、家で介護を分担していますが、非常に勉強になります。相手のことも考えて相手を尊重しないといけないという環境に置かれることが大切だと思います。また、介護を家族の

ですが、その時のことをお聞かせください。

香山:研究補助者制度を作ってくださいましたよね。あれはちょうど私が第一子を出産した時だったので、とてもありがたかったです。裁量労働制は休みを取るのも仕事をするのも自分で決められます。その中で支援制度があることによって、補助者の方に対して契約としていろいろお手伝いをしていただけるので、とてもありがたかったと個人的に思っています。最初は女性のみが支援対象でしたが、徐々に子育てをする男性や介護者にも広がってきています。だんだんと自分の子どもが成長してきて、これからは介護の心配も出てくるようなタイミングですので、ぜひ支援制度を続けてほしいと思いますし、より多くの方が利用されて安心して研究活動ができるとよいと思います。

中高生への進学講話

関:大学の教員は全員が広報メンバーだと思いますが、先生は比較的外に出ていかれていますよね。

香山:今の中学生は社会課題に対するアンテナがとても高く、自分事もそうですが、社会課題への関わりという視点を持っている気がします。例えば、大学や学部を偏差値で選ぶのではなく、あの先生のこの研究が面白いとか、この研究が進んでいった先の将来を見たいとか、研究や教員ベースで将来を選んでいかれると良いのではないかと、と中高生に話をしています。工学はどの分野とも仲良くなれるとても懐の深いユニバーサルな学問だと思います。教育現場に積極的に出かけていき、進路に悩んでいるなら理系に進んだほうが、あわよくば工学に来ると楽しいよ、ということをとどろく伝えていきたいです。

※6月13日に取材したインタビュー記事を抜粋掲載しております。

インタビュー全文は男女共同参画推進センターのウェブサイトからご覧いただけます。
<https://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/awareness/interview/post-15.php>

中で一人だけでやっていたら潰れてしまうので、分担して、自分ができることはやりましょうという気持ちを持って誰かに言われなくても実行する事が大事で、学部の運営にも共通すると思います。全てが完璧にできるわけではないですが、やはり人にはその人の事情もあることを踏まえて、でも学部のことも考えないといけないのが基本です。多様性とはそういうもののだと介護を通して学びました。

自走する組織をつくる

関:学生同士のコミュニケーションが減っているとおっしゃいましたがコロナがあったからでしょうか。

村上:コロナがあって減ったのはもちろんあります。しかし、対面にしたら解決するかという、そうでもありません。対面で強制するものではなく、研究室の雰囲気がいとみんなが集まってきます。雰囲気がいいとは、ある程度自分が認めてもらえて、安全が確保されることです。イクボス宣言に書いたとおり、自走する組織を目指しています。強制されるのではなく、自分でやってみて楽しいと感じることが大事で、その雰囲気を作るには様々な準備が必要ですが、少なくとも任されていないものは自走しません。任せることから始めないと。信頼のないところに安心はありません。雰囲気が良くないとそれからの発展ありません。また、自分でやろうと思うのはすごく大事なことで、自分でやる習慣づけができれば、社会に出てからも自分でやります。自分でやっているかどうかを判断する尺度は自分事になっているかです。例えば私が何かをして学生が「先生ありがとうございます」という時は、学生にとって自分事になっています。だからお礼を言われることが嬉しいというよりは、お礼を言われることで、この人が自分事としてやっているのわかり、それが嬉しいのです。

※5月20日に取材したインタビュー記事を抜粋掲載しております。

インタビュー全文は男女共同参画推進センターのウェブサイトからご覧いただけます。

NEWS & TOPICS

■ 令和6年度男女共同参画セミナー開催

「みんなで信州の未来を考えよう 2024」

—女性活躍推進キャラバン 第5弾—

開催日時: 令和6年12月19日(木) 13:30~15:30

開催場所: 信州大学長野(工学)キャンパス

国際科学イノベーションセンター(AICS)2階 セミナースペース

申込受付中: 12月17日(火) 〆切

多くの方のご参加をお待ちしています!

詳細は男女共同参画推進センターのホームページをご覧ください。

<https://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/news/notice/121920245.php>

■ 男女共同参画推進セミナー～第4弾～の動画のオンデマンド配信を開始しました(学内限定)

9月に伊那市長、伊那食品工業株式会社柴開発本部長、他2名をパネリストにお迎えして開催した時のものです。

<https://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/concerned/cat16652/642024.php>

■ 立科町教育委員会主催「ふれあいサロン」現地研修が開催されました

当センターのこれまでの歩みや現在位置を再確認し、すべての人が住みやすい社会を考える契機になりました。

<https://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/news/notice/post-145.php>

■ 令和5年度男女共同参画に関するアンケート調査集計結果の詳細をHPに掲載しました(学内限定)

スフレ通信No.50に掲載したものの詳細です。こちらをご覧ください。

<https://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/concerned/cat16652/post-14.php>

■ アンコンシャスバイアス研修を開催しました(10/17)

3グループ12名の参加でした。「講師の先生のお話しの内容も良く、他の参加者の話を聞けば聞くほど色々な考え方や捉え方があり、非常に勉強になった」という感想もあり、好評でした。管理職を対象に行いましたが、全員に知っていただきたい内容のため、来年度は受講対象を広げる予定です。

活き“粋” Column Relay コラムリレー 第3回

このコラムは、本学で“活き活き”働く教職員がリレー形式でお届けする“粋”なコラムです。

推し活を推し活する日々

子育てにおいて、子どもたちの体調や機嫌はコロコロ変わるのでなかなかやっかいです。特に忙しいときに限って、まるで狙ったかのように突然悪くなるので困ったものです。コロコロ変わるといえば、子どもたちの興味・感情もコロコロと変わります。その移ろいの早さに呆れることもあります。それについては楽しんでいる面もあります。私は比較的どんなことも面白いと思える方で、逆に言えば熱心になるもの、「推し」のようなものはありません。一方子どもたちは様々なものにハマるので、子どもたちがハマったものに私も全



ブリキアの映画はもちろん行きます

力でついていくようにしています。例えば、今子供たちはブリキア、新しいカギ(学校かくれんぼ)などにハマっているので、私も負けないように情報収集し、積極的に話題にしています。いずれ子どもたちが

にウザがられるように

うえやま けんた 上山 健太 准教授

学術研究院(理学系)

家族構成

妻・長女(6歳)・次女(3歳)

あなたのリラックス法は?

リラックス方法: コーヒーを飲むことと漫画を読むこと。

リラックスタイム: 子どもたちが寝て、片付けや翌日の準備が終わった後。

なるでしょうから、喜んでもらえる間は「子どもたちの推し活を推し活」して楽しもうと思います。



花や植物も好き



飛行機にも興味津々



父の日

お問い合わせ

信州大学 男女共同参画推進センター(SuFRE)

〒390-8621 松本市旭 3-1-1
内線 811-2150, 811-2140
TEL 0263-37-3150 FAX 0263-37-3314
mail sufre@shinshu-u.ac.jp

バックナンバーはこちらからご覧いただけます。

教育学部分室

〒380-8544

長野市西長野 6-口

内線 831-4018

工学部分室

〒380-8533

長野市若里 4-17-1

内線 821-5693

農学部分室

〒399-4598

上伊那郡南箕輪村 8304

内線 851-3120

繊維学部分室

〒386-8567

上田市常田 3-15-1

内線 841-5031

信州大学 スフレ

検索

▶ <https://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/article/sufre/>

